

特定非営利活動法人 **アイユーゴー通信 第 40 号**ホームページ: <http://aiyugo.org/>

〒590-0452 大阪府泉南郡熊取町山の手台 1-22-10

TEL : 072-452-5680 / 090-9167-7053

メールアドレス: snittaskmj0715@yahoo.co.jp*Aiyugo***はじめに**

いつもご理解ご協力をいただきありがとうございます。
小雪のお知らせが入るようになりました。

みなさま、お変わりございませんでしょうか。

かつてお世話になった助成団体の理事長様は、北海道でマンゴーを栽培していたそうです。その栽培の責任者であった専門家は、東南アジアであればわかるが、北海道でこんな愚かなことをさせられるのだ、と不満を漏らしていました。

私たちは、気象変動が私たちの日常に多大な影響を与えるものと危惧し自然環境の問題に取り組んでいます。

これまで植林事業を年に1度の大きなイベントとして実施していました。しかし、2023年から、持続的に取り組む必要があるのではないかと思い、次の世代を担う子供たちが自然環境の現実を学び、自分たちが毎年必要に応じて植林を行っていくことができるように環境教育 (School Forestry) 事業をマダガスカルの小中学校で開催しています。

今年はベトナムでその事業を始めました。大きな評判を得ています。

ベトナムの2大学 (ホーチミン自然科学大学・ダラット大学) と協定を結ぶ

中央3名: 左より、ホーチミン市自然科学大学学長、アイユーゴー理事長、ダラット大学副学長

国際 NGO アイユーゴーとホーチミン市自然科学大学ならびにダラット大学との協力関係を継続し、価値あるものにするために、3者が協定書にサインしました。

この写真は、3団体が、今年8月18日にダラット大学でジョイントセミナーを始める直前に、会議室で協定書に署名して記念のために撮影した写真であります。現地のメディアにも大きく取り上げられました。

協定の目的は、アイユーゴーが2003年以来行ってきたベトナムの少数民族への自立支援、ジョイントセミナー(合同セミナー)での若者たちの文化・福祉などの情報交換、また交換留学などを推進することにあります。

私たち NGO の活動は、これまで海外において支援事業を行ってきましたが、これからはさらに、日本国内において、海外から現地の人を招へいし、彼らが能動的にかかわれる企業や大学などの場を提供する活動も欠かせないのではないかと考えています。

これまでのベトナムにおける支援事業

協定を結んだホーチミン市自然科学大学の学長はクアン(Tran Le Quan)氏です。彼はアイユーゴーが設立されたときからのベトナム代表です。もう一つの大学であるダラット大学には、ともに活動した社会福祉学部長であった故タイ教授が勤めていました。現在、活動しているヒエン(Nguyen Thi Minh Hien) 女史はタイ教授の教え子です。

ベトナムで始めた事業は、少数民族のための自立支援であります。最初は「牛銀行」の設立から始めました。少数民族の村の中で貧しく不自由な暮らしをしている家族に、離乳後の雌の子牛を無償で与え、十数か月後の新たな出産までの期間に放牧しつつ育成に務め、のちに出産した子牛を売って生活の糧にしていくという事業でした。

牛銀行の対象は家族の柱となる人が病弱な家庭としました。ところが、子牛の提供を始めたものの、2、3か月でその子牛を売ってしまいました。こちらの管理の問題もありますが、「背に腹は代えられない」と思いました。

それ以来、個人を対象とするのではなく、コミュニティに対して自立を働きかける設備の設置や、都心から離れた地区での学校や低学年用教室の増築、図書館建設などに努めました。コミュニティがその内部における個々の問題にかかわり、自立を促す事業を行いました。合同セミナー(以後、ジョイントセミナー)はダラット大学において実施し、若者たちの情報交換の場を提供してきました。次に、2003年からこれまでのベトナムでの事業を列挙します。

アイユーゴーのベトナムにおける事業

- 2003 牛銀行 (ラムドン県)
- 2005 小学校低学年用教室増築(ラット村 A) (ラムドン県)
- 2005 小学校低学年用教室増築(ラット村 B) (ラムドン県)
- 2007 小学校建設 (ラムドン県)
- 2008 医療福祉合同セミナー (ラムドン県)
- 2009 農業支援センターとグリーンハウス建設 (ラムドン県)
- 2010 パイロットファーム建設 (ラムドン県)
- 2012 小学校建設 (ラムドン県)
- 2015 医療福祉合同セミナー (ホーチミン市)
- 2016 ミニ図書館建設 (クアンナム県ダナン市)
- 医療福祉合同セミナー (ホーチミン市)
- 2017 日・越医療福祉合同セミナー (ホーチミン市)
- 2023 日・越・タイ 3か国合同セミナー (ラムドン県)
- 2024 ミニ図書館建設 (ラムドン県)
- 日・越ジョイントセミナー (ラムドン県)
- 2025 ジョイントセミナーインベトナム (ラムドン県)
- 環境教育(スクールフォレストリ)事業 (ラムドン県)
- 電灯設置事業 (ラムドン県)

(写真)



2005年



2005年



2007年



2009年



2009年



2012年



2016年



2024年

ジョイントセミナーインベトナム(8/16 ~ 8/22)

報告：近畿大学生物理工学部 4年 木戸啓介

1. 旅程

〈 1 〉 8月16日

日本人参加者8名とタイからワチラ(アイユーゴータイ代表)がタンソンニャット国際空港第2ターミナルに到着した。ホーチミンからダラットまでの距離は、約300km。時間を有効に行うために今回は飛行機でダラットへ向かうことにした。新設された第3ターミナルへ移動し、ホーチミン市自然科学大学の学生3名と職員1名と合流し、リエンケオン国際空港に向かった。ダラット到着後、ヒエンと合流した。



ホーチミン市自然科学大学の参加者
左からカイ、ニャン、ハム、コイ



タンソンニャット 国際空港 T2 で日本人参加者一同
左から丸尾、木戸啓介、木戸花香、新田、小島石原、ワチラ、各務、中西

〈 2 〉8月17日

午前の朝食後に、日本とホーチミン市自然科学大学からの参加者、タイからのワチラ、そしてダラット大学のヒエンたちが中心となりセミナーを開始し、ベトナムの概要とダラットの紹介を行った。午後からは、ダラット大学の学生も合流し、大学のキャンパスを離れ、ラムドン省の少数民族の女性が運営するカフェへ行き、コーヒー豆を栽培する理由やコーヒービジネスについて説明を受けて、様々な交流を行った。カフェを運営している女性の家で参加者一同、夕食を頂いた。



〈 3 〉8月18日

午前、ダラット大学の学長を表敬訪問した。アイユーゴー、ホーチミン市自然科学大学、ダラット大学の3者は学術協力、学生交流プログラム、地域社会奉仕活動の実施における連携としていくことで



日本とベトナムの学生



春巻き作り



みんなで食した夕食

合意し、調印を行った。(前掲) その後にセミナーが始まり、理事長の新田が「環境教育(School Forestry)」事業を紹介した。午後、本セミナーに参加した学生および理事の各務などが環境、学校現場でのいじめ、日本の文化などについてそれぞれプレゼンテーションを行った。

〈 4 〉8月19日

SOS Village を訪問した。3歳から18歳ほどの子どもたちと一緒に、「アブラハムの子」や「じゃんけん列車」などの遊び、後に子どもたちが暮らしている家を見学した。夕食後、飛行機でホーチミンへ移動した。



参加者一同(ダラット大学)



ルール説明 (SOS Village)



じゃんけん列車 (SOS Village)

〈 5 〉8月20日

ベントイン市場、統一会堂、ホーチミン市自然科学大学を訪問した。

〈 6 〉8月21日

昨年一部開業したホーチミンメトロやバス、タクシーに乗り、スイティエン公園、ホーチミン人民委員会庁舎前、サイゴン中央郵便局、タンディン教会、ベトナム戦争証跡博物館を訪問した。



ホーチミン市内観光 統一会堂



レストランにて

〈 7 〉8月22日

深夜便に搭乗し、明朝7時に関西国際空港に無事に帰還し、それぞれ帰路に着いた。

2. 5つのセミナー



プレゼンを待つ日本人参加者5名



プレゼンする日本人参加者



環境教育についてプレゼンする

セミナー①: ベトナム・ダラットについて知る

ベトナムは南北に細長い国土を持ち、北部は四季があり勤勉、南部は熱帯気候でゆったりとした文化がある。

平均年齢33歳の若い労働力が経済成長を支え、英語教育も盛んである。一方で、公共交通機関の整備遅れに

よる交通渋滞や大気汚染が課題であり、インフラ投資が進んでいることを学んだ。

セミナー②： 少数民族の経営するカフェ訪問

参加者たちは少数民族チャンさんが経営するカフェを訪問し、現地の方と交流した。彼女が独立して事業を立ち上げ、村の女性に仕事を生み出した話に、私たちは感銘を受けた。彼女は将来的にはコーヒー豆の販売量を拡大するという目標を持ち、困難な栽培環境にも挑戦し、コーヒー栽培の困難やフェアトレードの可能性についても言及した。参加者たちは村の子どもたちと食事や遊びを楽しみ、ジェスチャーゲームやマジックを披露し交流を深めた。

セミナー③： スクールフォレストプロジェクト発表

アイユーゴーはマダガスカルプロジェクトを通して環境破壊と環境教育(スクールフォレスト)の意義、ダラット大学はカーソイの子どもたちの環境教育についてそれぞれ紹介した。

3. 日本から参加した学生の声

本ジョイントセミナーには、日本から大学生 4 名、高校生 1 名の計 5 名が参加した。各参加者は、自ら企画・作成したプレゼンテーションを英語で行い、ベトナムの学生および教職員に向けて発表した。

発表活動に加え、参加学生はベトナムの学生や現地関係者に対し積極的に交流を図り、主体的に学びを得ようとする姿勢が見受けられた。

以上を踏まえ、ジョイントセミナーを通じて得られた成果や所感を報告してもらった。

(右：参照)

おわりに

今回のジョイントセミナーでは、学生同士の交流が非常に活発に行われた。ホーチミン市自然科学大学からの参加者は、当初の計画とは異なり、予定を調整してまでダラット市内のみならずホーチミン市内の訪問にも同行し、自分たちの住む街を丁寧に案内して下さった。そのご厚意に心より感謝申し上げたい。

また、すべての学生が積極的にコミュニケーションを図り、英語による意思疎通の実感を得られる貴重な機会となった。互いの笑顔が増えていく様子や、直接会話を重ねる過程を通じて、私自身も本セミナーが大変充実したものであったと強く感じている。(木戸啓介)

*顧問の小山正博氏が 2025 年 7 月 25 日に永眠されました。本会の設立時から不可欠な大きな力であり続けました。ご冥福をお祈りします。

セミナー④： 学生発表および意見交流

日本の学生は「日本の伝統文化」、ダラット大学の学生は「いじめやメンタルヘルス」、ホーチミン市自然科学大学の学生は「環境問題」について発表。日本の学生は英語力の差を感じつつも、現地の学生との交流を通して新たな気づきを得ることができた。

セミナー⑤： 学生発表および意見交流

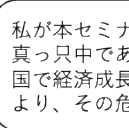
アイユーゴー参加者とホーチミン市自然科学大学の学生が SOS village を訪問し、親のいない子供たちと交流した。日本人学生が歌やゲームを通じて子供たちと打ち解け、お菓子を一緒に食べながら温かい時間を過ごした。子供たちは言葉が通じなくても懸命にコミュニケーションを取ろうとし、その姿に私たちは感動した。施設見学では、家庭のような環境と大学進学支援に感銘を受けた。

<助成：公益財団法人 三菱UFJ 国際財団>



近畿大学4年
木戸啓介

今回のセミナーでは、学生同士が主体的に発言し議論することがメインで充実した1週間でした。ホーチミン市自然科学大学の職員や学生、ダラット大学の教員や学生、ベトナムの現地の方々などとたくさん英語での交流や意見を交わすことによって新たな発見や考え方を学ぶことができました。



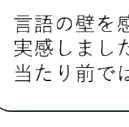
立命館大学3年
丸尾爽太



立命館大学3年
丸尾爽太

私が本セミナーで学んだことはベトナムという国自体が経済成長真っ只中であり、日本と違いどこでも活気があったことです。わが国で経済成長が停滞していることは自明ですが、海外に行くことにより、その危機感というのを改めて感じる事ができました。

初海外で不安もありましたが、人の温かさや心の豊かさに触れて価値観が大きく変わりました。また、英語力の不足を痛感し、留学に向けた学習意欲が一層高まりました。



近畿大学2年
石原羽純

言語の壁を感じつつも、身振り手振りや表情で通じ合えることを実感しました。また、日本とベトナムの違いから私たちの日常は当たり前ではないことに気付きました。



兵庫県立大学附属高校1年
木戸花香

ベトナムの子といっぱい英語で交流することができてよかったです。ベトナムに行くまでの自分の考え方と180度変わってとても良い経験になりました。

<振込先> 特定非営利活動法人アイユーゴー 理事長 新田幸夫
・三井住友銀行 阿倍野支店 : 7479470 ・ゆうちょ銀行 : 00930-9-144252

〒590-0452 大阪府泉南郡熊取町山の手台 1 - 22 - 10 Tel:090-9167-7053 Mail: snittaskmj0715@yahoo.co.jp
発行者：新田幸夫 印刷：(株)フジカク